

思い込み誤配を防ぐ

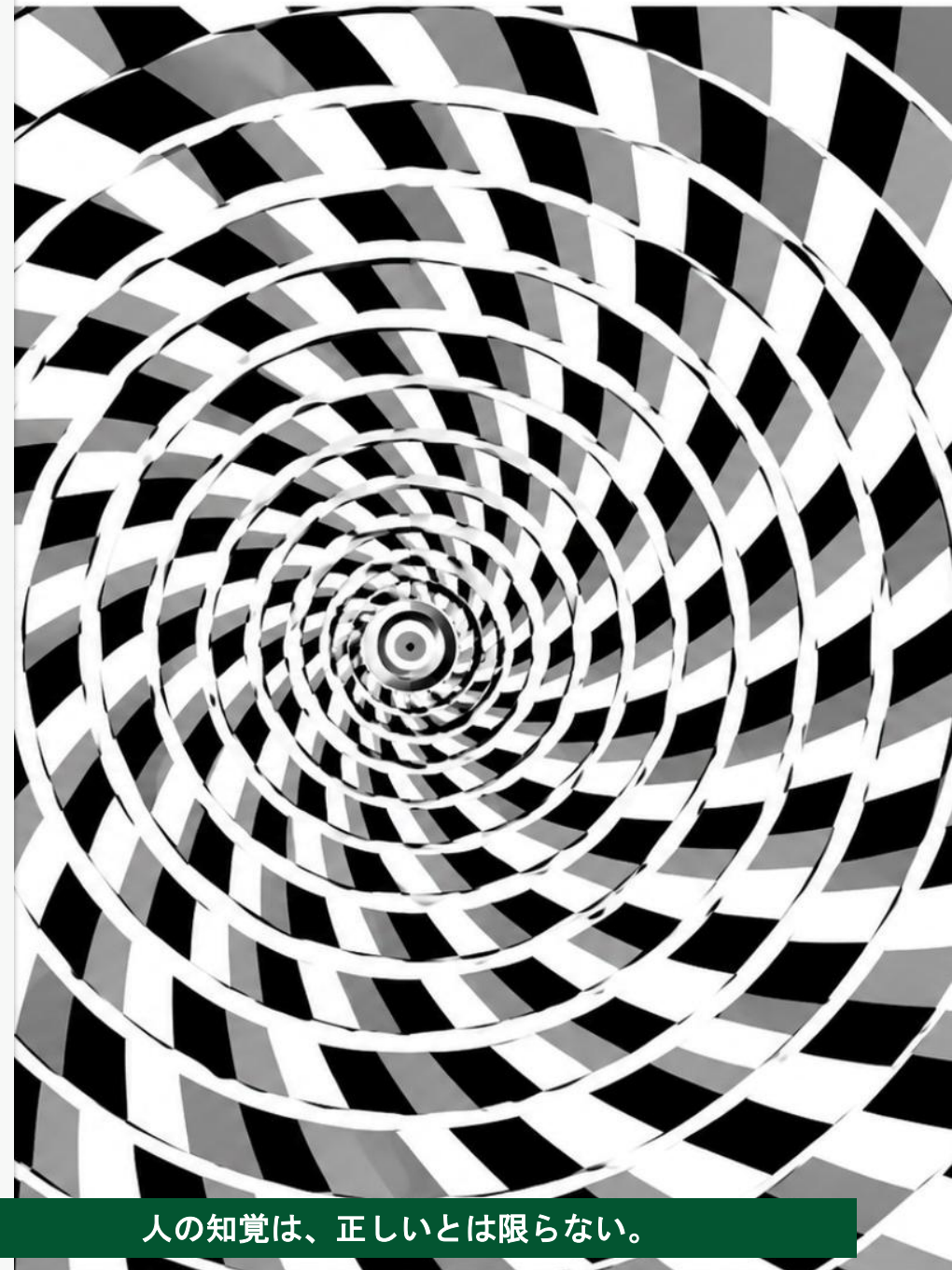
「見たつもり」を
「確認した」に変える現場研修

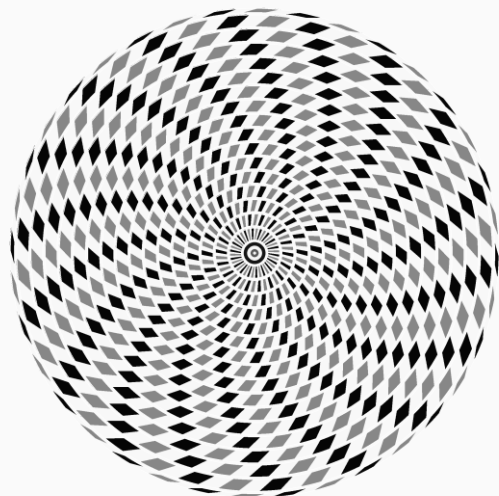
荷下ろし前の10秒が、会社の信用を守る。



株式会社 太鵬便 研修資料

人の知覚は、正しいとは限らない。

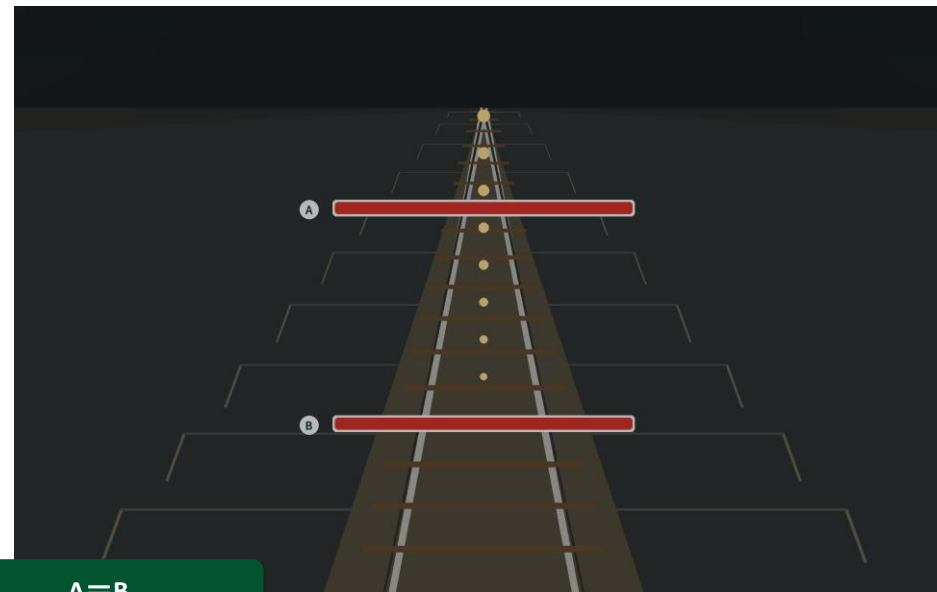




輪郭は同心円

「渦巻きに見えますか？」

円の輪郭はすべて同心円です。
それでも流れに見えるように、現場では「いつものルート」「いつもの納品先」が確認を甘くします。



A=B

「AとB、どちらが長く見えますか？」

赤い線は、同じ図形を複製した同じ長さです。
奥行きの印象だけで、建物・入口・置き場を決めつけると誤配が起きます。

いつもの流れほど、思い込みが生まれる。似ていることは、一致していることではありません。

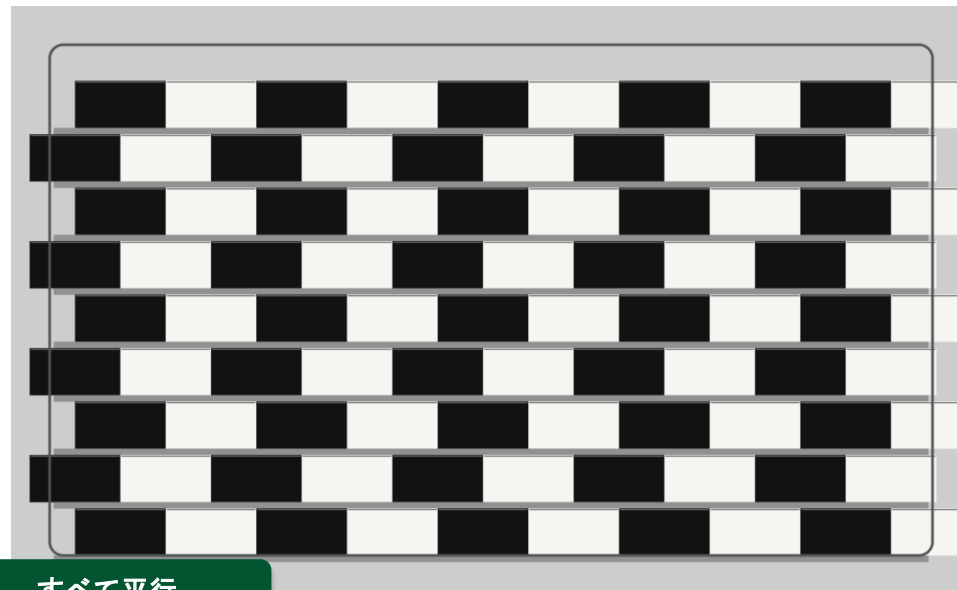
あなたの脳は、見えていないものまで補っています



輪郭なし

「白い三角形が見えますか？」

白い三角形の線は、どこにも描かれていません。
脳は会社名や住所も途中で補ってしまうため、最後まで声に出す確認が必要です。



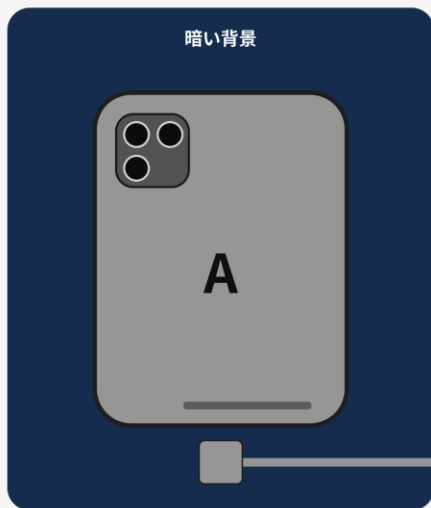
すべて平行

「横線が傾いて見えますか？」

灰色の横線は、すべて平行です。
周りの模様に引っ張られるように、周囲の荷物や現場の雰囲気判断を狂わせます。

脳は勝手に読む。だから、会社名は最後まで、住所は番地まで、声に出して確認する。

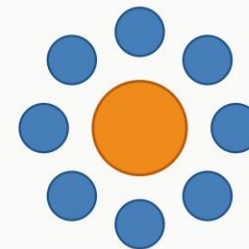
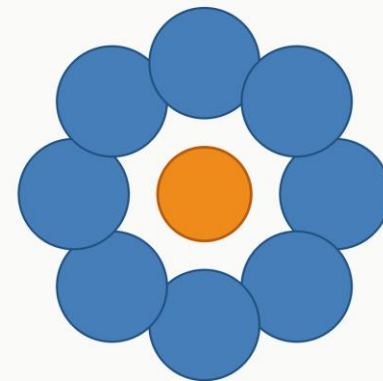
比較と背景が、あなたの判断を狂わせます



同一RGB

「AとB、違う色に見えますか？」

スマホ本体は、まったく同じRGB値です。影・反射・グラデーションは使っていません。
背景だけで、同じ色が違って見えます。



中心円は同径

「どちらの円が大きく見えますか？」

中央のオレンジ円は、同じ直径です。
周囲との比較で目立つ荷物に意識が偏ると、小口や個数違いを見落とします。

状況が悪い時ほど、思い込みは強くなる。目立つ荷物だけが、確認対象ではありません。

周りの情報に引っ張られると、確認は簡単にズレます



横線は同長

「どちらの横線が長く見えますか？」

中央の横線は、同じ長さです。
矢印の向きが判断を狂わせるように、置き場や周囲の流れが判断をゆがめます。



すべて平行

「長い線は平行に見えますか？」

長い線は、すべて平行です。
周りの短い線に引っ張られると、「ここで合っているはず」という思い込みが生まれます。

誤配は、荷物を置いた瞬間ではなく、思い込んだ瞬間に始まります。

荷下ろし前の10秒が、会社の信用を守る

誤配を防ぐ基本は、3点確認です。



1

荷札

会社名・宛名・住所・個数を確認する



2

伝票

配送先・指示内容・品名・個数を確認する



3

現場

看板・表札・担当者・納品場所を確認する

どれか1つでも違和感があれば、止まる。止まることは、遅いことではなく、品質を守ることです。